

## シンポジウム 「NIETの壁を乗り越えるために」

座長：LSTR療法学会会長、新潟大学名誉教授 星野 悦郎

シンポジスト：戸高 勝之（大分県：LSTR療法学会専門医）  
牧 和宏（青森県：LSTR療法学会専門医）  
貝出 泰範（広島県：LSTR療法学会専門医）  
豊島 敦哉（大阪府：LSTR療法学会専門医）

### NIETを阻むもの 牧 和宏

結論的に言って、NIETを修得するために必要なものは「自覚と実感」しか無い、と私は思っている。

NIETについて「こんなに簡単で効果的な治療法をどうして行わないの？」と、様々な人に聞けば、だいたい以下の様な返事が集まる。

- ①必要性を感じない。
- ②保険点数上（経済上）のメリットが無い。
- ③従来法での「ピッタリ根充」といった施術の成否を判断するものが無い。
- ④今いち、効果に疑問が残る（ほんとうに治るのか）。

⑤失敗したから。  
一つ一つ検討してみる。

①は3Mix-MP法をやったことの無い人に多い。自分は従来法で充分やって行ける、という事なのでそういう人々に無理にLSTR療法を薦める必要もあるまい。従来法に疑問を感じたり苦勞したりした事が無いのであろう。

次に、①の傾向がある人達に多いと思うのだが②のメリットの問題。

3Mix-MP法は保険で認められていないから基本的には自費診療であり、術者も患者も様々な制約

を受けている。しかし、真に NIET を修得すれば従来保存不可能とされていた歯牙も保存可能となり、患者からの信頼を得れば堂々と自費の補綴物を入れる事もできるのである。また、私が何より

もその経済的メリットを実感しているのは、その回転の良さである。感染根管治療が1～2回で済み、すぐに歯冠修復に移行できるのはロングスパンでみればかなりの経済的メリットにつながる。



図1 (術前)

図2 (術中)

図3 (術直後)

図4 (術後5年)

③の指標となるものに乏しい、という問題。まるでエンドの教科書に出てくる様な根充が施されているにもかかわらず根尖病巣の存在するデンタル、見た事ありませんか？つまり「ビックリ根充」を目安の一つでしかなく何ら成功を保証するものではない、ということだ。感染根管治療において、従来法の「機械的清掃と緊密な根充が根尖病巣の治癒に絶対不可欠」という説に対する強力な反例となりうるのが上の図1～図4である。感染根管の治癒にはリーマも根充もいらない、必要なのは「無菌化」だけ、ということを物語っている。そして、この症例や他の人達の症例を見れば④は解決されるのではないだろうか。

各々がそれぞれの原因と結果になりうる、という点で、④と⑤はある意味関連がある。失敗して効果に疑問が残る場合と、効果に疑問を感じているが故に失敗する場合である。効果を待てずに失敗と思ひ込むケースが良い例だ。やがてはそれが連環し、疑問→失敗→さらなる疑問→また失敗→疑問→・・・、と負のスパイラルに陥る。これを断ち切るには NIET を止めるしか無い。

ここで、当初の「自覚と実感」が大切になってくる。もし、失敗したら、しっかりと失敗を自覚し、なぜ失敗したのか「五つの必要十分条件」に照ら

し合わせてみる。薬は変質していなかったか？十分足りていたか？多すぎて密封を阻害してなかったか？術式は？そもそも細菌性の疾患じゃなかったかも？などと色々反省してみる事だ。失敗を NIET の効力への疑問に結びつけてはいけない。悪いのは NIET ではなく、自分なのだ。真の失敗の原因は五つの中の少なくともどれか一つに必ず当てはまるはずだ。その後、それを克服したらどんな些細な症例でもいいから NIET の成功体験をたくさん持つ事が大事。出来るだけ多く NIET の効力を実感すれば、その中から新たな自覚が生まれ次への実感へと繋がって行き、しだいに自覚と実感が交互に現れる正のスパイラルに入り込める。それを「修得」と言う。